

文學士上田駿一郎校閱
日韓書房編輯部編纂

新朝鮮地誌

朝鮮京城
日韓書房

て他に比類を見ずといへども、航運河として價值少きこと既述の如く、新義州、龍岩浦あれども、新義州は寄泊極めて不便に、龍岩浦は吃水十二呎以内の船舶の出入に差支なきも、港内狹隘なれば、大型の船舶は孰れも江外に於ける多獅嶋、錨地に投錨し、之より江を遡るものに至りては、安東に出入する船舶あるのみ、轉じて之を海港に求めんか、宣川灣の牛嶋、椶嶋、炭嶋三錨地、康翎灣のルーバー港、江華灣の碧瀾渡、隔音島、錨地、鞍馬島、錨地は好個の避難地として數ふべく、尙ほ清川江口の何日里浦、鐵山半島の李花浦、海州灣頭の海州、忠清南道の牙山灣、全羅北道の苴浦、全羅南道の法聖浦等幾多の漁港あり。

第十章 嶋嶼

濟州嶋、南海島、巨濟島を朝鮮の三大島と稱し、之に珍島及び漢江口に横はる江華島を加へて五大島と呼ぶ。濟州嶋は東西約二十餘里、南北約八里、朝鮮第一の大嶋なり。全嶋玄武岩層より構成せられ、その中央に聳ゆる漢顰山は熄火山にして海拔約二、七〇〇米突、白頭山に次ぐ半島第二の高山として知られ、樹木鬱蒼とし

て之を蔽ひ、檜、椿、榎等の良材を産し、又櫟、榲、櫨、檜等を生ずるを以て、椎茸製造盛んに、尙柑桔、山柚子あるは、獨り此島あるのみ。南海島は慶南第一の巨島にして、之れに次いで大なるものを巨濟島とす。珍島は陸地と相對する處を鳴洋渡と云ひ、その東北に當りて碧波亭の瀬戸あり、一に珍島の瀬戸とも稱し、西南面に於ける水路の要衝たるも、潮流急激にして、其最も甚しき時は波浪洶湧、一大瀑流を爲し、航行頗る危険なり。江華島は京城に通ずる水路の咽喉を扼する險要の地たり。その南に在る永宗嶋を第一門となし、更に進んで北すれば頂山島あり、江華島の草芝嶺と相對して第二門をなし、之を過ぐることに里許にして、水曲を成す所、之を孫石頂と云ひ、江上第一の要害たり。岸上に大院君築きし所の砲臺の跡あり。曾て米國軍艦の砲撃に遭ひし所、更に遡れば甲申に達す。右岸は文珠山の控海門、左岸は乃ち江華嶋の鎮海門にして、之を第三門となす。文珠城山は曾て佛國陸戰隊の大敗を招きし所なり。此峽關を過ぐれば、漢江分流して、茲に二派となり、江流斷崖を嚙んで旋回し、眞に天塹を成す。仁川開港後、此處に水軍を置き、漢江の防禦に備へし事あり。

如上の外、朝鮮海峽に所安島、甫吉島、露兒島、古今島、防葯島、莞島、薪知島、青山島、居金島、羅老島、巨文島、金鰲列島、突山島、昌善島、蛇梁島、閑山島、欲知島、加德島、絶影島等あり。黃海方面には、薪島列島、磐城列島、根島、炭島、大和島、身彌島、椒島、白翎島、大靑島、小靑島、延平列島、喬桐島、永宗島、八尾島、月尾島、豊島、大部島、小部島、靈興島、水深島、安眠島、元山島、隔音群島、鞍馬群島、羅州群島、黒山群島等あり。之に反して、日本海には、鬱陵島、麗島、馬養島等の小島あるのみ。

此内著名なるものに就き記せんに、鬱陵島は内地人の所謂松島にして、江原道平海郡越松浦を、東北に距る四十余里の海中に在る一孤島なり。東西五里、南北四里、面積凡そ九平方里、中央に聳ゆる一峯を聖人峯といひ、海拔約千七百尺、濫伐の結果、往時の偉を留めざれど、尙多少の樹林なきに非ず。之より産する樺は、内地にて松島桐と稱して珍重せらる。此附近に日本海戦により名を知られたるロックリ、アンコルドあり。巨文島は内地人俗に三島と云ふ。講竹島、巨文島、古島の三島、三方より相擁して、中に英人の所謂ポート・ハミルトンを成す。曾て英國が之を占領せし事ありて、遍く世間に其名を知らるゝに至れり。身彌島は西北面第一の大島に

して、南北七里、東西三里、周圍約十八里、其東北に位する根島は、俗に皮島と稱せられ、明末に方りて、敗將文毛龍、亡民を糾合して之に據り、朝鮮と通じて清軍を牽制せし事あり、今尙城壕の峰頭を遶るを見る。

第十一章 海流

半島の沿海を洗ふ海流に二あり。一は暖流にして黒潮の一支派に屬し、他は寒流即ち親潮の一支派ライマン寒流に屬す。此二海流は互に反對の方向を取りて流れ、その交流する處に濃厚なる海霧を生ぜしむ。その發生時期は暖流の膨脹期間、即ち四月より九月に至る間に、殊に膨脹の極限に達する七八兩月を多しとし、西海面に於て最も甚しく、數日間迷濛咫尺を辨せざる事あり。航海者の尤も困難を感ずる所にして、氣温頓に低下し、盛夏の候尙寒冷を覺ゆるに至る。

暖流は之を對馬海流と稱す、赤道海流の北進し、臺灣の東に沿ひて流るゝもの、沖繩群島の北方に至りて分岐し、九州の西端を掠めて朝鮮海峽を過ぎ、江原道の沿岸を洗ひ、東朝鮮灣を横ざり、舞水端附近より東折して、北海道本島の西方に及

附錄

明治四十一年度	一、三三六	二、八八〇	五二	二、三五三
明治四十年度	一、三〇七	二、七六四	五	一、六六六

(第十三號表三)

郵便物取扱數一覽

各年度末調

年 度	通 常 郵 便 物		小 包 郵 便 物	
	引 受	配 達	引 受	配 達
明治四十三年度	四七、〇八三、五七〇	五三、二八一、四七一	六八、六二五	九八、〇九七
明治四十二年度	四〇、七三三、八二三	四三、二七七、八三〇	四九、一七三	七五、〇九七
明治四十一年度	三三、五九九、七六八	三七、六四四、九七九	三三、七六三	六〇、七五五
明治四十年度	三二、四六一、六九〇	三三、〇七、六九九	三六、〇三五	四八、五五六

1912年

明治四十五年六月十日印刷
 明治四十五年六月十六日發行

最新朝鮮地誌

定價金壹圓五拾錢

日韓書房

著 作 者 日韓書房編輯部

發 行 兼 印 刷 者 森 山 美 夫

京城本町二丁目四十番戶

京城旭町二丁目

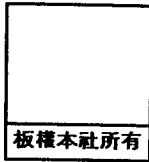
印 刷 所 京 城 印 刷 所



發 行 所 日 韓 書 房

京城本町二丁目四十番戶
 電話一四五番、二二七番
 振替口座京城一一五番

韓國地理風俗誌叢書



1995년 2월 10일 초판인쇄
1995년 2월 20일 초판발행

편 자 : 경인문화사 편집부
발 행 자 : 한 정 회

발 행 처 : 도서출판 경인문화사
서울·마포구 용강동 494-15

전 화 : 718-4831~2

등록전화 : 제10-18호/1973. 11. 8

정가 각권 33,000원

* 파본은 교환해 드립니다.